

令和6年度防災に関する授業

実践1 6年生国語 目的や条件に応じて話し合おう「みんなで楽しく過ごすために」

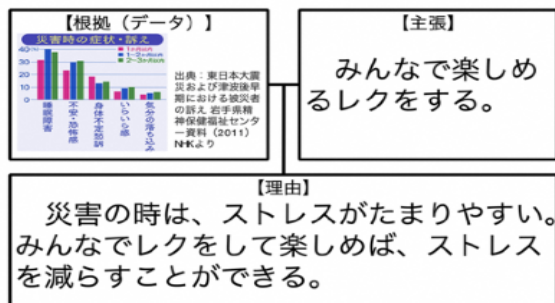
(1) 学習の展開

時	概要
1	・「みなが納得できる結論」「よりよい結論を出せる話し合い」について教科書を参考にして学ぶ。 ・災害に関する視覚資料から、議題（パフォーマンス課題）「避難所生活で、小6の自分たちでもできることは何か」を決め出す。 ・課題解決に向かう意識を高めるために、さらに災害に対する各種データを提示する。
2	・河合小学校とオンライン交流をし、議論することを確認する。 ・議題と目的、条件を確認する。 ・トゥールミンモデルを用い、主張、理由、根拠をはっきりさせる。
4	・河合小学校とオンライン交流をし、議題について議論する。 ・仮の結論を出す。
6	・専門家（宮川防災士会長岡田様）からのアドバイスをもらい、結論を省察する。 ・学びを振り返る。

【参加者】
河合小：6年6名
教諭1名
宮川小：6年1名
教諭1名

(2) 学習の様子

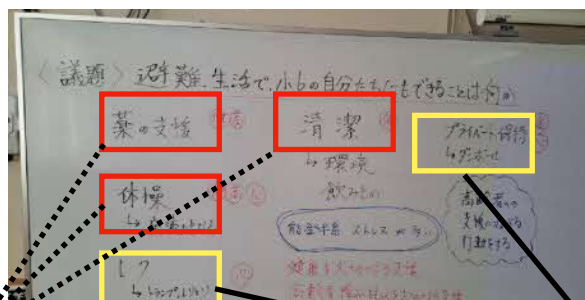
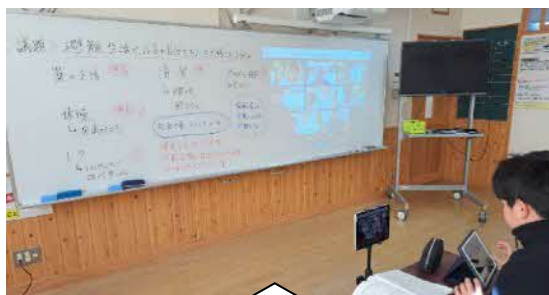
第2時 トゥールミンモデル（簡素化したもの）



「理由」と「根拠」が混同することを防ぐため、トゥールミンモデルを活用し、論理的に自分の考え（主張）をもてるようにした。

根拠や理由を明確にして書くことが苦手なA児も目的と条件に沿った議題に対する主張をもつことができた。

第4時 河合小学校とのオンラインによる議論



【交流後のA児の振り返り】ぼくが学んだことは、みんな高齢者のことや健康を大切にする意見をもっていたことです。「薬の支援」と「体操」と「清潔」はすべて**体の健康**のことで、「プライベートの保持」と「レク」は**心の健康**のことです。ぼくは、避難生活をしなければいけない時には**高齢者への支援**につながる行動をしたいと思いました。

A児は議論を通して、共通点を見出すことによって、概念を形成し、避難所生活における「健康に過ごす」ことの大切さ（価値）に気付いた。

第6時 専門家への取材と結論の省察

目的や条件に応じて話し合う
みんなで楽しく過ごすために
6年 組 番()

【議題】
避難生活で小6の自分たちにもできることは何か

はじめの自分の意見

みんなが楽しめるレクをする。王理由は、首と背を痛めて寝がひま、いっていたからレクをすればストレスがたまらない。みんなが楽しめるかレクをやりたいです。

河合小の6人と話し合っまとまった意見

草の支援や体中景で富れい
者のイキを大ににする行動が
多。なぜかという理由には
毎食者が多いから心のケア
をしたいです。

防災士の()さんから、アドバイスなどの話を聞いて学んだこと

実際の避難生活では冷たい食事が提供
されることが多いそうですができるだけ温かい食
事ができると心のケアにつながるそうです。
また、トイレを使用するときのルールを皆が守っていないの
がすごくきつくないと聞きました。

A児は河合小とのオンライン交流を通して気付いた「健康に過ごす」ことの中でも、最初の自分の主張から進展させた「心のケア」という視点を重要視した。その視点から、専門家に話を聞いたことで、「心のケア」に関連する、避難所における課題を学ぶことができた。このことは、最終的な考えにも大きく影響している。

【A児の最終的な考え】やっぱり、地震や洪水が起きたら、みんながストレスをためていくので、レクや温かい食事の提供などは大切だと思う。ぼくは、ストレスをどんどん減らし心のケアにつながる行動を考えないといけないと思う。心のケアにつながる方法はたくさんあるので、もっと考えたいと思った。

(3) 成果

- ・ツールミンモデルを活用し、主張、根拠、理由を明確にさせたことは、「災害時の行動や、備えについて調べ、討論する」ための手助けとなった。
- ・「災害が発生した後に自分たちがどのようなことができるのか」という災害発生後に着目した学習は、いつ、どこで、どのように起こるかわからない災害に対する緊急時の実践行動について考える貴重な機会になり、当事者意識の醸成につながった。
- ・他校とのオンライン交流は、自分の考えを吟味することにつながり、避難所生活の際に大切にすべき価値に目を向けるものとなった。本学習では、河合小の担任教諭の尽力が大きかったが、飛騨市の全小学校が同じ内容で防災の学習をしていることは、全小学校との交流が行える可能性があるということであるため、全市的な広がりのある学習につながる。